

琉球大学学術リポジトリ

中級日本語学習者の原因・理由を表す「ため」の使用に関する一考察

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学留学生センター 公開日: 2012-04-17 キーワード (Ja): 原因・結果を表す「ため」, 使用率, 教科書 キーワード (En): 作成者: 金城, 尚美, 翁長, 志保子, 与那城, 美帆, Kinjo, Naomi, Onaga, Shihoko, Yonashiro, Miho メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/24115

中級日本語学習者の原因・理由を表す「ため」の使用に関する一考察

金城 尚美・翁 長志 保子・与 那 城 美 帆

要 旨

本研究は、原因・理由を表す「ため」について、中級レベルの日本語学習者の使用実態を把握し、学習者の「ため」の運用上の困難点および指導上の問題点を明らかにすることを目的とする。まず中級日本語学習者の作文などから「ため」の使用頻度を調べた結果、「ため」の使用例が少ないことがわかった。次に原因・理由が含まれる文章を使ったテスト形式の調査を日本語学習者と日本人学生に実施した。その結果、日本人学生が「ため」の使用率が高い文章において、日本語学習者は「ため」の使用率が低い傾向がみられた。さらに、インタビュー調査を実施した結果、正答率の高い学習者は原因・理由を表す「ため」の使い分けを意識していることがわかった。また教科書を調べたところ、「ため」の教科書での提示の有無、提示位置や説明の仕方が学習者の「ため」の使用率の低さに影響を与えている可能性があることを示唆する結果が得られた。

【キーワード】： 原因・結果を表す「ため」、使用率、教科書

1. はじめに

日本語学習者が書いた文章を見ると、日本語能力試験の1級または2級に合格しているレベルの学習者であっても、原因・理由を表す「ため」の使用が「ので」、「から」に比べ少なく、「ため」が使用された方が適切な文においても使っていないケースが多く見られる。次の(1)、(2)、(3)は、留学生が実際に書いた文である。(下線は筆者。その他の文法的誤りは()内に正しい言い方に訂正し、[]に言葉を補足し示した。)

- (1) 来春、卒業見込みの大学生の就職率は、文系の学生より、理系の学生のほうが仕事の選択肢が多いので、高い。(台湾／女性)
- (2) なので、テレビでこのニュースを知り、興味が湧いてきた(湧いた)。(台湾／女性)
- (3) 破壊された自然は戻すの(こと)が難しいので、[基地移設に]反対する(韓国／女性)

前述のように、レポートや意見文、感想文などのあらたまった文章で、「ため」を使用した方が適切な箇所に「ので」を使用する例が多く見られる。上記の(1)、(2)、(3)は、日本人母語話者からみると、不自然に感じられる。(1)と(3)の場合、「ので」を「ため」に、(2)の「なので」を「そのため」に変えると、不自然さは軽減される。原因・理由を表す「ため」は、中級レベルの日本語学習者にとって既習の表現であると考えられるが、十分に理解し運用されているわけではないことがうかがえる。そのため本調査は次の2点を明らかにすることを目的として行った。

- ①日本語学習者の「ため」の使用実態を把握すること。
- ②日本語学習者の「ため」に関する知識と運用上の問題点を明らかにすること。

2. 「ため」の使用実態

本調査では、まず大学のプレイスメント・テストによって中級レベルに位置づけられた日本語学習者の作文データを収集した。対象としたのは、2008年度および2009年度のニュースを教材とした授業の受講者によって書かれた文である。受講者は、中国、韓国、台湾、その他アジア、北米、南米、欧州出身(国を示すと個人が特定される恐れがあるケースは、地域別に示す)で、割合としてはアジア系の学生が多いクラスであった。

その授業の受講者が書いた感想文、報告文、ニュース文、説明文、意見文などの中で、「ため」を使用した方が適切だと判断される文のデータ数は、合計366例になった。次の(4)と(5)は、収集した作文データから抜粋したものである。(4)は自身の意見を述べる文章、(5)は新聞の見出しからニュース文を作る課題で提出された文章の一部である。

- (4) 90年代、四歳の娘が殺されたため、大騒ぎを起こした足利事件
(中国／女性)
- (5) ハブによる被害が増加する傾向があるので、県が注意を呼びかけている
(中国／女性)

収集した作文データにおいては、(4)のように「ため」を用いる方が適切だと判断される文で「ため」を用いている例は、366例中98例(26.8%)にとどまり、「ので」が用いられた文は、219例(81.7%)と8割強を占め、「から」などのその他の表現が用いら

れている文が，49例（18.2%）であった。これらのことから，日本語学習者は原因・理由を表す文において，「ため」の使用頻度が少なく，「ので」を使用する傾向にあるという実態が明らかになった。

3. 原因・理由を表す「ため」の使用に関する調査

日本語学習者の作文データにおける「ため」と「ので」の使用実態を踏まえ，原因・理由を述べる文で「ため」の使用状況を確認するためにテスト形式（穴埋め補充問題）の調査を行った。調査内容は，使用場面・状況を提示しない問題（以下テスト①）と提示した問題（以下テスト②）の2種類を設けた（資料参照のこと）。調査の対象者は，沖縄県内の大学に在籍する日本人学生31名と，大学が実施したプレイスメント・テストにより中級レベルのクラスに配置された日本語学習者61名である。調査は，2009年12月から2010年1月にかけて実施した。男女比や出身国の内訳については表1に示した通りである。

表1 被験者のデータ

	日本人学生	日本語学習者
男女比	男性:9名(29.0%)，女性:20名(64.5%)， 記載無:2名	男性:21名(34.4%)，女性:38名(62.3%)， 記載無:2名
出身		中国:27名，韓国:9名，台湾:5名， その他アジア:5名，北米:4名，南米:2名， ヨーロッパ:9名（計11ヶ国・61名）
学年	学部生:19名，大学院生:12名	

3.1. 調査結果

3.1.1. テスト①の結果

使用場면을提示しないテスト①は15の問題を設けたが，そのうち5問は今回分析の対象としない逆説の接続詞を補充する問題であった。そのため，原因・理由を述べる文章10問についての結果を報告する。問題ごとに「ため（そのため）」、「ので」、「から」を解答として記述した人数の割合を使用率として示したのが表2と表3である。

日本語学習者は，全ての問題において「ため（そのため）」の使用率が低いことがわかる（表3）。日本人学生に実施した調査で「ため（そのため）」の使用率が高い問題⑤，⑧，⑩番で，日本語学習者の使用率を見ても（その他を除く），原因・理由

の「ため」の使用率は「ので」、「から」の使用率を下回っていることがわかる。問題②と⑫番については、日本人学生も日本語学習者も「ので」と「から」を解答しておらず、「ため」または「その他」の解答が多かった。これは、問題が②「風邪の【 】」、⑫「火災の【 】」となっており、空欄の直前に「の」があるため、「ので」または「から」が使用できない環境であることから、「ため」と解答していると考えられる。その他の解答としては、「せいで」とした日本語学習者が多かった。

テスト①の結果から、日本語学習者が、「ため」の使用にあまり積極的でないことがわかった。その他、問題①、⑨番のように「ので」と解答した日本人学生の「ため」の使用率が高い文章でも、日本語学習者は「から」の使用率が高い。倉持(2007)は、留学生は「ので」よりも「から」を多用する傾向があると指摘しているが、ここでもその傾向が見られた。

表2 日本人学生のテスト①の結果

問題番号	①	②	③	⑤	⑧	⑨	⑩	⑫	⑬	⑮
「ため」の使用率	0	87.1	16.1	45.1	48.4	0	61.3	38.7	0	22.6
「ので」の使用率	58.0	0	64.5	29.0	45.2	67.7	0	0	83.9	19.4
「から」の使用率	22.6	0	16.1	16.1	6.4	32.3	16.1	0	3.2	45.2
その他	19.4	12.9	3.3	9.8	0	0	22.6	61.3	12.9	12.8

表3 日本語学習者のテスト①の結果

問題番号	①	②	③	⑤	⑧	⑨	⑩	⑫	⑬	⑮
「ため」の使用率	9.8	23.0	11.5	11.5	18.0	0	18.0	18.0	0	6.6
「ので」の使用率	19.7	0	44.3	37.7	41.0	45.9	4.9	4.9	32.8	0
「から」の使用率	37.7	0	26.2	32.8	31.1	45.9	31.1	0	14.8	45.9
その他	32.8	77.0	18.0	18.0	9.9	8.2	46.0	77.1	52.4	47.5

3.1.2. テスト②の結果

使用場面を提示したテスト②は、2つの部分から構成されている。一つ目(問題1)は、依頼場面で、依頼する相手が教師の場合、先輩の場合、友人の場合の3パターンを設定し、話し言葉における「ため」、「ので」、「から」の使用率をみた。二つ目(問題2)は、レポートを書く場合、感想文を書く場合、先生にメールを出す場合、友人にメー

ルを出す場合，新聞記事の場合という5つの状況を設定し，書き言葉における，「ため」，「ので」，「から」の使用率をみた。

表4 日本人学生のテスト②の結果

問題	問題	①	②	③	問題	①	②	③	④	⑤-1	⑤-2
「ため」の使用率		1	41.9	16.1		0	2	71.0	6.5	54.8	0
「ので」の使用率	54.8		80.6	9.7	16.1	67.7		38.7	32.3	0	3.2
「から」の使用率	0		0	77.4	0	6.5		0	64.5	6.4	0
その他	3.3		3.3	12.9	12.9	19.3		6.5	3.2	22.6	22.6

表5 日本語学習者のテスト②の結果

問題	問題	①	②	③	問題	①	②	③	④	⑤-1	⑤-2
「ため」の使用率		1	29.5	19.7		0	2	14.8	3.3	11.5	1.6
「ので」の使用率	32.8		44.3	9.8	26.2	24.6		68.9	24.6	8.2	31.1
「から」の使用率	3.3		9.8	52.5	14.8	34.4		4.9	55.7	14.8	16.4
その他	34.4		26.2	37.7	44.2	37.7		14.7	18.1	52.4	36.1

調査の結果，表4と表5に示されるようなデータが得られた。まず問題1の①番では，日本人学生は「ので」の使用率が最も高いが，日本語学習者は「ため」の使用率が高く（その他の使用率を除く），「から」と解答した者はどちらもいない。②番ではどちらも「ので」の使用率が高く，日本人学生は「から」と解答した者はいない。③番では，日本人学生，日本語学習者ともに，「から」の使用率が高く（その他を除く），「ため」と解答した者がいない。問題1の結果から，話す相手が友人のような近い関係の場合，日本人学生，日本語学習者ともに「から」を使用し，目上の人の場合，「から」は使用しないという傾向が見られる。ここから話す相手によって，「ため」，「ので」，「から」を使い分けている傾向があることがうかがえる。

一方，問題2の書き言葉では，日本人学生の「ため（そのため）」の使用率が高い①，③，⑤-1，⑤-2番で，日本語学習者の「ため」の使用率が高いのは，⑤-1のみであり，その他は「ので」「から」の使用率を上回っていない（その他を除く）。書き言葉という設定であっても，日本語学習者の「ため」の使用率は高くないことから，書き言葉であるという観点が「ため」，「ので」，「から」のどれを使用するかという判断材料に

はなっていない可能性が示唆された。

3.1.3. 調査結果のまとめ

本調査の結果、日本人学生と日本語学習者では、原因・理由を表す「ため」、「ので」、「から」の使用率が異なる傾向を示していることが明らかになった。また日本語学習者は、今回の調査項目において原因・理由を表す「ため」の使用率が低いことがわかった。日本人学生は書き言葉という条件を明示すると、「ため」の使用率が高まったことから、書き言葉か話し言葉かが、「ため」と「ので」または「から」を使い分ける条件の一つになっていることがうかがえた。一方、日本語学習者は書き言葉であるという条件を明示しても「ため」の使用率は条件を提示しない場合と比較して変化は見られなかった。したがって、書き言葉か、話し言葉かという点は、「ため」と「ので」または「から」を使用する際に意識されていないことがうかがえる結果となった。さらに、日本人学生も日本語学習者も、友人と話す場合には「から」を使用し、目上の人に対しては、「から」は使わないことがわかった。この結果から、話す相手が「ため」と「ので」または「から」の使用の際の判断基準として意識されている可能性が示唆された。

4. インタビュー調査

テスト形式の筆記による調査の実施後、①原因・理由を表す「ため」についてどのように理解または認識をしているか、②原因・理由を表す「ため」、「ので」、「から」をどのように使い分けているのかを調べることを目的に、テスト形式の調査に協力した日本語学習者を対象にインタビュー調査を実施した。調査の対象としたのは、テスト形式の調査で「ため」、「ので」、「から」を適切に使い、その正答率が50%以上の被調査者と、それらの使用が適切でなく、正答率が35%以下と低かった被調査者である。対象者の中から、今回は被験者は、韓国語を母語とする日本語学習者4名と、中国語母語話者4名の計8名を抽出した(表6)。今回のインタビュー調査により、表7に示したような情報が得られた。表7は、アンケート調査の結果、使用率の低かった「ため」を中心にまとめたものである。

インタビュー調査により、正答率が高い学習者は、原因・理由の「ため」は、書き言葉で使用するという認識を持っていることがわかった。一方、正答率の低い学習者は、「ため」については、「目的」を表す語彙として理解しており、原因・理由を表す

表6 インタビュー調査の対象者

正答率の高い4名				
対象者	CH1(女性)	CH2(女性)	KH1(女性)	KH2(女性)
国籍	中国		韓国	
正答率	66.7%(16/24)	50%(12/24)	75%(18/24)	62.5%(15/24)
正答率の低い4名				
対象者	CL1(女性)	CL2(女性)	KL1(女性)	KL2(男性)
国籍	中国		韓国	
正答率	33.3%(8/24)	16.7%(4/24)	29.2%(7/24)	25%(6/24)

表7 インタビュー調査による情報

	①「ため」の使い分けの意識	②母語との対応関係の意識
正答率の高い 学習者 (CH1, CH2) (KH1, KH2)	a. (CH1, CH2) 「ため」の使用場面を，書き言葉／フォーマルな場面であると意識している b. (KH1, KH2) 「ため」の使用場面を，書き言葉／教員との会話，欠席の連絡などであると意識している	a. (CH1, CH2) 母語でも「ため」「ので」にあたる言葉(「由于」，「因為」)を意識して使用している b. (KH1, KH2) 母語でも，「ため」「ので」にあたる言葉(「テムネ(때문에)」，「ニッカ」)を意識して使用している
正答率の低い 学習者 (CL1, CL2) (KL1, KL2)	a. (CL1, CL2) 「ため」の使用場面を，目的のみで理解しており，使用場面を意識していない b. (KL1, KL2) 「ため」の使用場面を，目的のみで理解しており，使用場面を意識していない	a. (CL1, CL2) 母語で「ため」にあたる語として「因為」のみを指摘し，使用時に場面などは意識していない b. (KL1, KL2) 母語で「ため」にあたる語として「ウィヘソ(의에서)」のみを指摘し，意識していない

ことを把握していないことがわかった。また、「ため」の使用率・正答率が高い学習者は、「ため」と「ので」にあたる母語の語彙を対応させるなどして，その使用の差異を意識していることが明らかになった。それに対して，「ため」の使用率・正答率の低い学習者は母語との対応関係も意識しておらず，「ため」の使用場面などを，より意識している学習者の方が，使用率・正答率が高かった。筆記による調査の結果と，インタビュー調査の結果から，特に，「ため」に関する情報が十分でない学習者がいることが，明らかになった。

5. 原因・理由を表す「ため」と「ので」

日本語学習者は「ため」の使用率が低く、「ので」を多く使っていることから、ここでは先行研究で「ため」と「ので」が、どのように分析されているのかという観点からその違いを調べた。しかし、先行研究において、「ため」と「ので」の使い分けについて言及したものは管見の限り見当たらなかった。「ために」を、目的を表す構文として使用する「ように」と比較し、使い分けや差異を分析した研究(國廣1982, 佐治1984, 前田1995, 中島2000, 稲垣2009)や、「ので」を原因や理由を表す接続表現である「から」と比較・分析した研究(永野1952, 言語学研究会・構文論グループ1985, 岩崎1995, 前原・菊池2005, 倉持2007等)はある。しかし、外国人のための日本語教育を目的として、日本語分析ツールを応用し、原因・理由を表す接続表現の分析、教材の作成を行っている幸松・佐野(2002)でも、対象となっているのは「から」と「のだから」であり、「ので」については「から」と比較して「従属節に含むムード形式に制限を持つ」(幸松・佐野2002: 38)と指摘するにとどまっている。また、「ため」についても原因・理由の「典型的な表現形式」(幸松・佐野2002: 38)としてあげられるのみであった。そこで「ため」と「ので」の意味と働きや、運用上の観点・用法などについて、先行研究における記述と『日本語教育事典 縮刷版』(以下縮刷版), 『新版 日本語教育事典』(以下新版), を参考にしまとめたのが表8である。またこれらの先行研究などの記述から、「ため」と「ので」の特徴であると思われる部分を示したのが表9である。

表8に示したように、「ため」と「ので」は両者とも、前件の事柄が後件の事柄における原因・理由となる働きがある。ただし、「ので」は、相手に主観的な表現の押し付けを避けることができるために、依頼や意向を表す際に使用されている。しかし、「ため」を用いる際、主節にははたらきかけや意志などの文は表れないため、比較的「ので」よりも「ため」の方が客観的な表現であるとされている。また、「ため」は主に書き言葉に用いられると捉えられ、「ので」は「丁寧な文」で用いられると記述されており、どちらも書く際に用いられているという点で共通している。

以上のように、「ため」と「ので」の意味や働き、用法に関する記述については、主観的か客観的かという点をのぞいて、大きな違いは示されていない。そこで、原因・理由の「ため」と「ので」が教科書などでどのように提示されているのかを調べることにした。

表8 「ため」と「ので」の意味的な説明・用法など

た め	①意味的な説明	<p>a. 規定の事柄を述べ、それが後に述べる事柄の理由・原因であることを示す。（『縮刷版』1982:『新版』2005）</p> <p>b. 「目的A実現のためBを遂行することは、裏をかえせば後件Bに進む理由としてAを示し、「それがAなので、その結果Bとなってしまった」とのように「対象が受身的立場に立つ」のが特徴。（森田1980:281）</p> <p>c. 「（理由）がBより以前であれば「理由・原因」となり、「以後であれば、「目的」ということになる」。（國廣1982:111）</p> <p>d. 「そのため」は原因・結果型因果関係と根拠・主張型因果関係の両方に関わりを持つが、基本的用法は原因・結果型因果関係を表す。（張2003:25参照）</p> <p>e. 「必然的因果関係」のみを表すことができる。（池上2010:112）</p>
	②用法など	<p>a. 客観的な表現。主に書き言葉に用いる。（『縮刷版』1982）</p> <p>b. 客観的因果関係を表すフォーマルな表現。主節には、はたらきかけや意志・希望の文は表れず、改まったアナウンスや提示に用いる。（『新版』2005）</p> <p>c. 「そのため」は「とりわけ原因に重きを置く」（張2003:28）</p> <p>d. 「そのため」は書き手の判断を表せるが「一般的原理を踏まえて判断を述べていく場合には普通使えず、「個別的事例による判断の場合に使う」（張2003:31）</p>
の で	①意味的な説明	<p>a. 結果となるできごとを引き起こした原因を表す。また主節にあらわれた話者の判断の根拠や、命令・希望などの態度の理由を表す。（『新版』2005）</p> <p>b. 「ので」は「対象の論理」（奥田靖雄1986）であり、「するので」は「つきそい文もいとおわり文も、はなし手である《私》の意識のそとで進行しているリアルな出来事をえがきだしている。と同時に、これらのふたつの出来事と、そのあいだのリアルな原因・結果の関係がよいあらわされている」。（構文論グループ1985:27）</p>
	②用法など	<p>a. ありのままの客観的描写によって前件を後件に結びつける場合に用いる。依頼や意向の表現の場合、主観的な表現を他に押しつける感じを避けるため、「ので」を使うことも多い。（『縮刷版』1982）</p> <p>b. 丁寧な文によくなじむ。主節ははたらきかけや希望・意志を表し、理由節はその実現を容易にする情報や、きっかけとなる事態を表す。（『新版』2005）</p> <p>c. 前件の原因・理由の部分を開き手に説明する機能があり、前件が「聞き手にとって未知情報」や、「話者が個人的な事情を述べるときに使われ」る。（倉持2007:67）</p>

表9 先行研究に見られる「ため」と「ので」の特徴

	た め	の で
①意味	<p>■ため、●。</p> <p>(1)■が●の原因・理由となる文</p> <p>(2)■と●の結びつきが客観的にみて、原因・結果の関係となる文</p>	<p>■ので、●。</p> <p>(1)■が●の原因・理由となる文</p> <p>(2)■と●の結びつきが、「ため」に比べて主観的</p>
②用法	<p>主に書き言葉や、客観的な判断を伴う場合に使用</p>	<p>丁寧な文や、主観的で個人的な事情を述べるときに使用</p>

6. 教科書・参考書における原因・理由を表す「ため」の扱い

本調査では、初級、中級の教科書、問題集を中心に原因・理由を表す「ため」がどのように扱われているのか、本調査の結果で使用率の高かった「ので」と合わせて調べることにした。調査の観点は、①「ため」と「ので」の提示順、②原因・理由を表す「ため」の説明、の2点である。

まず「ため」と「ので」の教科書・参考書における提示順を調査した結果、表10に示した通りになった。調査対象とした24冊の教科書・問題集のうち4種類の教科書においては原因・理由の「ため」よりも「ので」の方が先に学習項目として提示されていた。また問題集については、原因・理由、目的などの文法上の働きによって内容が構成されており、原因・理由を表す表現は、教科書と同様に「ため」より「ので」の方が先に提示されている。さらに、原因・理由の「ため」よりも先に目的の「ため」を提示している教科書(4冊)、原因・理由の「ため」は、特に取り上げていない教科書(15冊)があることがわかった。

『ニューアプローチ中級日本語[基礎編]改訂版』では、原因・理由の「ため」と「ので」は同課での学習項目となっているが、原因・理由の「ため」については「原因と結果を客観的に述べる文で硬い文章によく使われる」(p. 89)、「ので」については、「事実を述べる文、客観的」(p. 90)と説明されている。その他、調査対象とした24冊の教科書・問題集の中で、直接「ため」と「ので」に関する言及があったものは、表10に記されている9冊のみであった。原因・理由の「ため」についての説明の記述と例文(一部)については、表11のようになっている。

表11にあるように、原因・理由の「ため」に関する言及は、「硬い文章」や「特別な事柄が起こったその原因を強調する」といった抽象的な説明に留まっており、具体例

を示す例文の提示数も少ない。また中級レベル以上の学習者と対象とした教科書では、「ため」と「ので」が学習済みであることを前提として、「一につき」などの表現の意味を、説明するための類似表現として、「ため」や「ので」が提示されるのみで、「ため」と「ので」の働きについて直接触れられているものはなかった。また、原因・理由を表す「ため」と「ので」についてその用法を比較しながら説明した教科書・参考書は今回の分析では見あたらなかった。今回の教科書・参考書などの調査から、日本語学習者が、「ため」と「ので」を適切に運用できるようにするためには、さらに具体的な説明と例文を増やすことが必要であると考えられる。

表10 記載のある教科書・問題集における提示箇所

教科書	「ので」	目的「ため」	原因・理由「ため」
『文化初級日本語Ⅰ』	37課中，第14課	なし	なし
『文化初級日本語Ⅱ』	なし	37課中，第33課	なし
『みんなの日本語 初級Ⅱ 本冊』	50課中，第39課	50課中，第42課	なし
『Situational Functional Japanese -Notes- Vol.1』	20課中， 第9課	20課中， 第23課:p.192-196.	20課中， 第23課:p.196.
『初級日本語:げんきⅠ』	読み書き編24課中， 第12課p.232	なし	なし
『初級日本語:げんきⅡ』	なし	読み書き編24課中， 第17課p.271， 第19課p.288	なし
『ニューアプローチ中級日本語 [基礎編]改訂版』	20課中， 第9課p.90	初級レベルで習得 済みという扱い	20課中， 第9課p.89
問題集	「ので」	目的「ため」	原因・理由「ため」
『どんなときどう使う 日本語表現文型200』	20項目中， 4.原因・理由:p.42	20項目中， 5.-Ⅱ.目的:p.56	20項目中， 4.原因・理由:p.44
『外国人のための日本語: 例文・問題シリーズ6:接続表現』	p.15	p.20, 項目b	p.20, 項目a

表11 教科書などにみられる「ため」に関する記述

教科書	説明	例文
①『どんな時どう使う：日本語表現文型200』(p. 44-p. 45)	「ため(に)[Owing to…/由于…]/普通ではない結果となった原因について言う。書き言葉でよく使う。普通のことに使うと不自然な文になる。「ため」の後ろには、話す人の意志を表す文や依頼などの表現はこない。	(駅のホームで)大雪のため、電車がおくられています。
②『ニューアプローチ』(p. 89)	原因と結果を客観的に述べる文なので、硬い文章によく使われる。	円が高くなった。そのため、輸入が増えたが、輸出が減った。
③『外国人のため』(p. 20)	「そのため(に)」「このため(に)」は句と句、文と文をつなぐ。特別な事柄が起こったその原因を強調する。	事故のため、道が混んでいました。

7. 考察

中級日本語学習者の作文などの資料やテスト形式の筆記調査から、原因や理由を表す「ため」の使用率が低いことが明らかになった。またインタビュー調査から、原因や理由を表す「ため」を意識して使っている学習者と、そうでない人がいること、目的を表す際に「ため」を使用するものとして理解し、原因や理由を表すことを認識していない学習者がいることもわかった。さらに数種類の教科書と問題集を調べた結果、理由や原因を表す語彙として、「ので」が「ため」より先に提示され、「ため」に関しては、目的や利益を表す「ため」の方が、原因や理由を表す「ため」よりも先に提示されていること、具体的な説明と例文が十分に示されていないこと、「ため」と「ので」の運用上の違いについて明確な説明がなされていないことがわかった。

倉持(2007)は、日本語学習者の原因・理由を表す「から」と「ので」の運用の研究において、「から」が多用される要因について、1)同様の意味を持つ語彙であれば、先にインプットされた方を学習者はよく使う傾向がある、2)カラ・ノデの違いを教科書も教師も示せないことにある、と指摘している。今回調査対象として取り上げた、原因・理由を表す「ため」は、「ので」よりも後に導入されており、さらに目的・利益を表す「ため」の方が先に導入されている。また目的・利益を表す「ため」は導入されているものの、原因・理由を表す「ため」は導入されていない教科書もあることがわかった。このように日本語学習者は、原因・理由を表す「ため」の使用に関し、うまく使えないために、意識的に「ため」の使用を回避(迫田2002:26)し、「ため」の代

用として「ので」を多用しているのではなく、理解や知識が十分でない可能性が高いと推測される。つまり原因・理由を表す「ため」を学んだのにもかかわらず、使う段階では不適切な使用を行ってしまう、すなわち言語知識はあるが言語運用に結びついていない（迫田2002）ということが、「ため」の誤用や使用を控える原因ではなく、教科書や参考書等での扱いが学習者の習得を困難にしている要因の一つではないかと考えられる。

前原等（2005）は、「から」の不自然な使用に関する研究において、「から」よりも「ので」を先に提示するという順序を再考すべきだと指摘しているが、「ため」についてもどのタイミングで提示するか、機能上の違いをどのように示すかを今後検討すべきだと言えるだろう。前原等（2005）が指摘しているように、学習者の利益を重視した提出順序や大関（2005）が指摘するような習得をプロセスとして捉えた提出順序を考慮するとともに、類似した意味・機能を持つ項目については、ある段階で、その違いや適切な使い方についてまとめて示す必要性があるのではないだろうか。

8. おわりに

本調査により、日本人学生の多くが「ため」を使用している場合でも、日本語学習者は原因・理由を表す「ため」の使用率が低く、「ので」を使う傾向があることがわかった。その原因として、理解が十分でないこと、正確でないこと、「ので」との運用上の違いが把握されていない可能性があることが推察された。迫田（2002）は、母語話者は暗示的知識として知っていて、無意識に使っているために、使い分けの違いを客観的に示すことが難しいことがあると指摘しているが、「ため」に関しても、母語話者は無意識に場面に応じて使っていると考えられる。日本語学習者が「ため」の適切な使用法を学ぶためにも、母語話者が持っている暗示的知識を教科書などで、意味や機能、類似の表現「ので」と「から」との運用上の相違点などを明示する必要があるだろう。そのためには、「ため」そのものの言語学的な研究とともに、実際の使用場面においてどのように「ため」が使われているのかを調べるのが今後の課題の一つと言える。

原因・理由を表す「ため」と「ので」などは、話し言葉か書き言葉か、主観的か客観的か、話す相手・文書を読む相手との関係、場面や状況などいくつかの観点を考慮しなければならない。本調査の結果を踏まえ、学習者の理解や習得を促進するためには、どのタイミングで、どのように説明し、どのような用例を示せばよいかという具

体的な方法を検討することも今後の課題の一つである。

引用および参考文献

- 池上素子 (2010) 「因果関係を表す「結果」の用法」『日本語教育』144号, 日本語教育学会, pp. 109-120
- 稲垣俊史 (2009) 「中国語を母語とする上級日本語学習者による目的を表す「ために」と「ように」の習得」『日本語教育』142号, 日本語教育学会, pp. 91-101
- 岩崎卓 (1995) 「ノデ節, カラ節のテンスについて」『國語學』179号, 日本語学会, pp. 103-104
- 大関浩美 (2005) 「日本語習得研究から文法項目の提出順序を考える」『2005年度日本語教育学会春季大会予稿集』日本語教育学会, pp. 284-285
- 奥田靖雄 (1986) 「条件付けを表現するつきそい・あわせ文-その体系性をめぐって-」『教育国語』87, むぎ書房, pp. 2-19
- 國廣哲爾 (1982) 「タメニ・ヨウニ」『ことばの意味3 辞書に書いていないこと』平凡社, pp. 104-111
- 倉持益子 (2007) 「原因・理由を表す接続表現カラ・ノデー-日本語教育における指導法を考える」『言語と交流』10号, 言語と交流会, pp. 57-69
- 言語研究会・構文論グループ (1985) 「条件づけを表現するつきそい・あわせ文 (二) —その2・原因的なつきそい・あわせ文—」『教育国語』82, むぎ書房, pp. 25-67
- 迫田久美子 (2002) 『日本語教育に生かす第二言語習得研究』アルク
- 佐治圭三 (1984) 「類義表現の分析の一方—目的を表す言い方を例として—」『金田一春彦博士古希記念論文集 第二巻 言語編』三省堂, pp. 294-314
- 張麟声 (2003) 「論説文体の日本語における因果関係を表す接続詞型表現をめぐって—「その結果」, 「そのため」と「したがって」—」『日本語教育』117号, 日本語教育学会, pp. 23-32
- 永野賢 (1952) 「「から」と「ので」とはどう違うのか」『国語と国文学』(29)第2号, pp. 30-41
- 中嶋孝幸 (2000) 「目的を表す構文について—ヨウニとタメニ—」『甲南大学紀要: 文学篇』115号, 甲南大学, pp. 18-29
- 日本語教育学会 (1982) 『日本語教育事典 縮刷版』大修館書店, pp. 210-214, p. 402
- 日本語教育学会 (2005) 『新版 日本語教育事典』大修館書店, pp. 168-173
- 前田直子 (1995) 「スルタメ (二)・スルヨウ (二), シニ, スルノニ—目的を表す表現—」『日本語類義表現の文法 (下) 連文・複文篇』くろしお出版, pp. 451-459
- 前原かおる・菊地康人 (2005) 「学習項目の提示順序の再検討による教育改善の可能性—理由の「から」「ので」を例にして—」『2005年度日本語教育学会春季大会予稿集』日本語教育学会, pp. 288-289

森田良行（1980）『角川小事典 基礎日本語2』角川書店，pp. 279-281

幸松英恵・佐野洋（2002）「外国人のための日本語教材の問題点について—日本語分析ツールを応用した教育素材の提案—」『情報処理学会研究報告 コンピューターと教育研究会報告』66-6，情報処理学会，pp. 37-44

〔分析対象とした教科書・問題集〕

- (1) 荒井令子ほか（1991）『テーマ別：中級から学ぶ日本語』，研究社出版
- (2) 財団法人海外技術者研修協会（AOTS）編（2000）『新日本語の中級：本冊』スリーエーネットワーク
- (3) 坂野永理・大野裕・坂根庸子・品川恭子（1999）『初級日本語：げんきⅠ』The Japan Times
- (4) 坂野永理・大野裕・坂根庸子・品川恭子・渡嘉敷恭子（1999）『初級日本語：げんきⅡ』The Japan Times
- (5) スリーエーネットワーク（1998）『みんなの日本語 初級Ⅱ 本冊』スリーエーネットワーク
- (6) 筑波ランゲージグループ（1991）『Situational Functional Japanese -Notes- Vol.1』，凡人社
- (7) 筑波ランゲージグループ（1992）『Situational Functional Japanese -Notes- Vol.2-3』，凡人社
- (8) 筑波ランゲージグループ（1991）『Situational Functional Japanese -Drills- Vol.1』，凡人社
- (9) 筑波ランゲージグループ（1992）『Situational Functional Japanese -Drills- Vol.2-3』，凡人社
- (10) 東京大学AIKOM日本語プログラム：近藤安月子・丸山千歌（2001）『中・上級日本語教科書：日本への招待』，東京大学出版会
- (11) 東京大学AIKOM日本語プログラム：近藤安月子・丸山千歌（2002）『中・上級日本語教科書：日本への招待：教師指導書』東京大学出版会
- (12) 土岐智・関正昭・平高史也・新内康子・石沢浩子（1999）『日本語中級J501-中級から上級へ—英語版』スリーエーネットワーク
- (13) 友松悦子・宮本淳・和栗雅子（2000）『どんなときどう使う：日本語表現文型200』アルク
- (14) 友松悦子・宮本淳・和栗雅子（1997）『どんな時どう使う：日本語表現文型500：短文完成練習帳』アルク

- (15) 日本語教育・教師協会(Jaltta)編(1992)『日本語中級読解:新版』アルク
- (16) 日本語研究社教材開発室:小柳昇(2003)『ニューアプローチ中級日本語[基礎編]改訂版』日本語研究社
- (17) 日本語研究社教材開発室:小柳昇(2002)『ニューアプローチ中級日本語[完成編]』日本語研究社
- (18) 平井悦子・三輪さち子(2007)『中級を学ぼう:日本語の文型と表現56:中級前期』スリーエーネットワーク
- (19) 文化外国語専門学校日本語課程『文化初級日本語Ⅰ』(1987), 凡人社
- (20) 文化外国語専門学校日本語課程『文化初級日本語Ⅱ』(1987), 凡人社
- (21) 松田弘志ほか(1994)『テーマ別:上級で学ぶ日本語(改訂版)』研究社
- (22) 松田弘志ほか(1995)『テーマ別:上級で学ぶ日本語教師用マニュアル(改訂版)』研究社
- (23) 三浦昭・岡まゆみ(1998)『中・上級者のための速読の日本語』The Japan Times
- (24) 横林宙世・下村彰子(1989)『外国人のための日本語:例文・問題シリーズ6:接続表現』荒竹出版

(金城-琉球大学留学生センター)

(翁長-琉球大学人文社会科学科研究科修士課程)

(与那城-那覇国際高校教諭)

資料 調査票 *紙幅の都合上, 該当問題のみ掲載。問題番号は元のままである。

問題1:【 】のなかにあてはまる言葉を入れて, 文を完成させてください。

- ① お父さんが怒った【 】, 子どもが泣いた。
- ② 昨日は風邪の【 】, 学校を休んだ。
- ③ 雨が降った【 】, 遠足は中止になった。
- ⑤ バスとトラックの事故が起きた【 】, 道路が通行止めになった。
- ⑧ 観光客が海でおぼれる事故が増えている【 】, 警察が注意を呼びかけている。
- ⑨ あの映画はつまらなかった【 】, 終わりまで見ませんでした。
- ⑩ 今夜, 台風が日本に最接近する。【 】, 飛行機の運航は中止となった。
- ⑫ 昨夜起きた火災の【 】, 今でも周りは煙のにおいがしている。

- ⑬ 漢字を調べたい【 】，この辞書を借りてもいいですか。
- ⑮ 今朝，東京で地震が起き，電車が止まった。【 】車で移動した。

問題2：【 】の中にあてはまる言葉を入れて，文を完成させてください。

1. 研究で使う資料を借りようと思い，お願いしています。

- ① 初めに会う先生にお願いする場合
「研究で使用する【 】，この資料を貸していただけませんか。」
- ② 年上の先輩にお願いする場合
「研究で使用する【 】，この資料を貸してもらいたいです。」
- ③ 友だちにお願いする場合
「研究で使いたい【 】，この資料，貸してくれる？」

2. 日本語で文章を書くときに，どのように書きますか。【 】に入る言葉を入れてください。

- ① 授業の課題で，研究レポートを書くとき
⇒現在の法律では，あまりにも不自由な点が多い【 】，国民の負担が減らない。
- ② 劇を見た後に感想文を書くとき
⇒大きな声ではきれいに発音していた【 】，良いと思いました。
- ③ 授業を欠席することを，先生にメールで連絡するとき
⇒N先生，申し訳ありませんが，今日は体調を崩してしまった【 】，授業を休ませていただきます。
- ④ 友だちに，予定が変更になったことを伝えるメールを送るとき。
⇒申し訳ないんだけど，用事が出来た【 】，今日の飲み会は，行けなくなりました。ごめんねm(_ _)m
- ⑤ ニュースの文を作るとき
⇒琉大で新型インフルエンザが流行した。【 】，授業が休講になった。
⇒沖縄県の調査によると，海外からの観光客が増加した【 】みやげ物屋などの店の売り上げが伸びているということだ。